

彦根市における ひきこもり支援ネットワークの 取り組みについて

 社会福祉法人彦根市社会福祉協議会

地域支援課 森 恵生

相談支援課 野瀬 純一

<内容>

- 1. ひきこもり支援ネットワークづくり
開始までの経緯**
- 2. 彦根市におけるアウトリーチ支援体制**
- 3. 今後に向けて**

1. ひきこもり支援ネットワークづくり 開始までの経緯

「我がごと・丸ごと相談支援包括化推進会議」の中で、相談における重点課題として『8050問題』や『ひきこもり状態の世帯支援』が挙がる。



『ひきこもり支援』に地域丸ごと連携で取り組む
必要性

関係機関によるネットワークづくりが不可欠

2020年1月

ひきこもり支援のあり方を検討するため、
「ひきこもり支援にかかる関係者ネットワーク構築に
向けた**キックオフ会議**」を開催

〔参加団体・機関〕

市行政(子ども・若者課、社会福祉課)、県行政(彦根保健所)、相談支援(市子ども・若者総合相談センター、地域生活支援センター
まな、県精神保健福祉センター、県ひきこもり支援センター)、医療
(南彦根クリニック)、地域(彦根市民生委員児童委員協議会連合
会、通信サロン、市社協)、就労支援(働き暮らしコト一支援セン
ター)、その他(県社協)



市内にある機能等の**資源の見える化**
ひきこもり支援の課題と支援の**方向性の整理**

市内には、ひきこもり支援に取り組む
多様な団体・機関がある



2020年8月

正式に「**ひきこもり支援ネットワーク会議**」発足

2. 彦根市におけるアウトリーチ支援体制

ひきこもり支援の課題と支援の方向性の中で

課題)

- ◆年齢や障害の有無等でカテゴリー化し、どんな窓口や機能があるかを全体的に俯瞰したものが不十分
- ◆専門職だけでなく、地域の見守りからの気づきが必要
- ◆ひきこもりの要因として多い「不登校」や「就労の不継続（退職）」の時点における取組が不十分

方向性)

- ◆どの機関も相談しやすい環境を整えていく
- ◆ひきこもり者や家族への寄り添い（粘り強く時間をかける）
- ◆アセスメントにより、本人や家族の困り感を見極めて、細分化により医療や専門相談へつなぐ



困りごとの**早期発見・早期対応**のため
いかにアウトリーチしていくか

地域の見守り合い・助け合い・支え合い
＋
専門職による粘り強い寄り添い

強みの異なる団体・機関のチームによる連携

精神保健＋医療＋困窮支援＋地域支援

アウトリーチ支援チームの構築

ねらい)

中長期のひきこもり者をはじめ、自らSOSを発信することが困難であったり、相談や支援につながらなかつたりする本人やその家族に寄り添った粘り強い訪問とつながりづくり(関係の構築)を行うことで、問題の早期発見・早期対応に努める。

※目的達成のために…

彦根保健所、南彦根クリニック、彦根市社会福祉課(自立支援係)および本会を構成機関、関係機関として子ども・若者課、障害福祉課、県ひきこもり支援センター、県社協を入れた「支援チーム」を設けている。

住民の困りごとを地域で受け止める場

困ったこととできることをつなげる

たすけあい 鳥居本



サロン等での
気づき・声かけ



困りごとのある人



民生委員



スタッフ
メンバー



住民
コーディネーター



専門職による『地域支援チーム』

住民主体の活動のサポート

→住民力(地域力)では解決できない課題への対応



地域包括・市社協



中長期の
ひきこもり者など

専門職による
『アウトリーチ支援チーム』

粘り強い寄り添い
必要な支援のアセスメント



保健所・医療機関
(南彦根CL)・
市社会福祉課・
市社協

3. 今後に向けて

ひきこもり支援における課題

- ◆今のところ生活できているため、現状について本人は困り感を持っていないことがある
- ◆家族が困り、疲れている(もしくは諦めている)
 - 本人の思いやニーズがなかなか掴めない
支援のゴールがどこか・何かが分からない

3. 今後に向けて

◎アウトリーチ支援は手段

⇒ 目的は困りごとの**早期発見・早期対応**
長期化させない(予防的福祉)

◎アウトリーチ支援だけでは不十分

⇒ **地域住民**とそれを支える**専門職チーム**
との**協働**がひきこもり支援・解決に不可欠